

私たちのまちづくり

多摩区まちづくり協議会 NEWS 2010年 (平成22年) 12月

29号

多摩のくらし～歳時記 ～子どものお祝い～

人は母のお腹に生命を宿したときから祝福を受け、やがて5カ月を迎えると、妊婦が腹部を保温、保護し、胎児の位置の正常を保つため、お腹に帯を巻きます。これを岩田帯（腹帯、結肌帯）といいます。多くはさらしを用い、イヌのお産はとても軽いところから、妊娠5カ月の戌（いぬ）の日から締める習慣があるようです。

東京近県では、水天神様に母子の安全を祈願し、岩田帯を頂いてきます。無事出産をすると、男子は30日、女子は31日に、氏神様や鎮守神様にお参りし、子どものすこやかな成長を願い、祝います。

100日または120日に乳児にはしを持たせ、初めて食膳につかせお食い初め（はし立て、はし初め）をします。実際には食べるまねごとですが、赤飯に尾頭付き（成長して頭になれるように）、吸い物で祝います。

男子は3歳、5歳、女子は3歳と7歳で、晴れ着を着せ、神社や氏神様などにお参りします。子どもは7歳までは神様の預かりものとして、これだけ育ちましたと報告に行くのだといわれています。

13歳になると、4月13日に、少年少女が福德、知恵などを授かることを願って、虚空蔵にお参りをします。これを十三詣りといいます。京都嵐山の法輪寺が有名ですが、知恵詣、知恵もらいなどと、大切に伝えられているところもあるようです。（川口）



多摩区商店街連合会

多摩区商店街連合会では、商工会議所、日本女子大の協力を得て「食」に関する事業者が、地域色のある多摩区ブランドの商品開発に取り組んでいます。その一つとして「のらぼう菜」を使用し、特産品ののらぼう菜を使った特産品づくりに力を入れています。



特産ののらぼう菜

9月、10月には、「食」文化の育成、地産地消の推進、地域の名産品づくりを目指し、のらぼう菜を使用した加工商品の試食会を開催しました。（安陪）

多摩区社会福祉協議会



車いす介護の研修のようす

社会福祉協議会は、法令に基づいて設置された民間組織です。会員は福祉関係機関や施設・団体、ボランティアグループ、当事者団体、行政関係者などで構成しています。住民を主体とした地域福祉に取り組み、地域の皆さまと一緒に「誰もが住みやすい福祉のまちづくり」を目指して活動しています。（石橋）

まち協のなかまたち

まち協への委員推薦団体を紹介します

第2期の活動に入り、横浜市や相模原市などの先進的なまちづくり活動に取り組む他都市との交流も活発になってきました。また、2月には恒例のまちづくり活動発表会「まちカツ！」と地域の市民活動団体が交流できる意見交換会「たまサロン」を開催します。（詳細は4ページまちづくりカレンダーを参照）

プロジェクトの活動もますます盛んです。これからもまち協の活動にご注目ください！

泉区地区経営委員会と 港南台タウンカフェを視察



泉区での意見交換のようす

秋晴れの11月18日、横浜市のまちづくりの事例を学ぶために、泉区と港南台の取り組みを視察しました。



左から委員の北原さん、新井さん

泉区では藤田区長から、区が取り組む新しい地域自治の仕組みについて説明を聞き、その中核を担う地区経営委員会の皆さんと意見交換しました。



イータウン代表の齊藤さん

自治会・町内会を中心にさまざまな団体が参加し、地域に根差した取り組みを行っているようすや、活動を支援する各種制度を学びました。



駅前イベント広場での説明

次に訪ねた港南台タウンカフェは、ボランティア、地元商店会、企業が連携して運営しているまちづくりの交流活動拠点で、各方面から注目を浴びているところです。

ここでは、これまでの経緯や、地域のさまざまな人々



港南台タウンカフェで岡野さんの説明を聞く。後ろの棚は小箱ショップ

がかかわる運営形態や事業内容についてお話を聞きました。

カフェの目玉の「小箱ショップ」には、壁一面に手作りの商品が並べられており、テーブルには絵本を読む親子がいたり、奥の一角では少人数の絵画教室が行われていました。地域に溶け込んでいるコミュニティ拠点の典型例を見たように思いました。

今回学んだ地域の取り組みを、今後の活動に生かしていきたいと思います。（本多）

他都市から初めての視察

10月29日、相模原市緑区城山地区まちづくり会議（藤井保代表以下18人）の皆さんから視察を受けました。



城山地区の皆さんとの意見交換

本多会長やプロジェクト代表からまち協の概要や活動状況を説明しました。城山地区の皆さんからは、自主的な活動への工夫、日ごろの課題やその抽出方法などについて次々と質問の手が上がり、2時間にわたって活発な意見が交わされました。（大久保）

まちづくりカレンダーに掲載する記事を募集しています。街のイベント、お知らせなどを寄せてください。詳細は事務局まで。

【申し込み先】まち協事務局へご連絡ください。

【会場】多摩区総合庁舎1階アトリウム

【掲示等】模造紙1枚程度のスペースを利用できます。事前にまち協でお預かりし、掲出します。

【日時】2月10日（木）～13日（日）8時～21時

【お問い合わせ】まち協事務局へご連絡ください。

【アトリウムで活動を紹介しませんか】

まちづくり協議会で行う「まちカツ！」たまサロンの開催に合わせて、1階アトリウムで活動展示コーナーを設けます。ぜひあなたの団体の活動を紹介してください。

「まちカツ！たまサロン」を開催します

多摩区まちづくり協議会の日ごろの活動や成果をご紹介しますとともに、区内や他都市の先進的なまちづくり活動の事例を学ぶ「まちカツ！たまサロン」を開催します。

事例紹介では、「長沢ひろば」の「のぼりとゆうえん隊」、また、世田谷区の「地域共生のいえ」の取り組みをご紹介します。ご予定です。また、グループに分かれて、お互いの活動に役立つ意見交換をします。ぜひご参加ください。入場無料。

【日時】2月11日（金）13時～16時30分

【会場】多摩区総合庁舎1階会議室

【内容】活動発表会 13時～13時40分
団体交流意見交換 13時40分～16時30分

※詳細はまちから寄せたい情報を掲載します

まちづくり
カレンダー

老人の孤独死、親による子どもの虐待など、心が寒くなる事件が目立ちます。こうした出来事は、現代社会の一部の病巣にすぎないと思いたいのですが、心が痛みます。日本は物質的には豊かになりましたが、人の心は貧しくなったようです。

地縁、血縁、学縁、職縁など、人が心を結びぎづなは、さまざまにあります。まず身近な縁を見つめ直し、それを少しでも強める努力が求められていると思います。

私たちが取り組む「まちづくり活動」は、地域でのさまざまな交流を通じて、そこに住む人々が心を通わし、縁やぎづなを強めようとする、ささやかな努力なのだと思います。（伊牟田）

編集後記

こんな活動に取り組んでいます！

各プロジェクトの活動のようすをご紹介します。



(左)参加者の皆さんと(中)当日のメニュー(右)いろいろな世代でワイワイ調理



第1回出前たまサロン開催

「ごはんをつなげる地域のごえん」



池田代表

利用できそうな拠点を調査し、実際に利用した感想を盛り込んだデータベースを作成するために「出前たまサロン」を開催しました。

第1回目は、10月16日(土)10時から15時まで生田中学校創作活動センターで「ごはんをつなげる地域のごえん」を開催しました。食生活改善推進員に協力を依頼し、川崎育ちの野菜で、ダイコン一本を使い切り、具をダイコンで包んだギョーザや豚汁などを作りました。

参加者は25人で20代の若者から

70代(80代?)まで、5つの調理台に分かれて包丁を握りました。

参加者のシニアの男性から「60歳になって初めてダイコンの皮をむいた」という声や、プロジェクトメンバーから「各調理台に若い人とシニアの交流が活発にできて一つの家族になったような楽しい雰囲気でも過ごした」という声、食生活改善推進員からは「今後実施する男性の料理教室のPRをすることができた」という感想があり、市民活動団体が元気に活動できるお手伝いできました。

(まちづくりネットワーク応援隊プロジェクト代表 池田)



みんなで大きな食卓を囲んで



食後は多摩区の魅力をテーマにワークショップ



若い人もどんどん発言

まち協に参加して

地域の人々とのつながりを広げるために！



出前たまサロンでの交流

メンバーの方々はアットホームで、たまに開かれる懇親会では地ビールを飲みに行くなど活動自体が触れ合いの場になっています。

先日、このプロジェクト主催で若者との交流を深

めようと料理教室が開かれました。当日は、世代間を超えた地域の方々の笑顔があふれ、つながりの広がりを感じました。この料理教室は、僕が「一人暮らしの若者が自炊で健康的になれたら」「作った料理を囲んでおしゃべりができたら」と言ったことがきっかけだったこともあり、満足感、充実感に満ちたイベントでした。

次回に向け、あらゆる世代の人がより多く集まるにはどうしたらいいか、それを考えるのがとても楽しいです。

次回に向け、あらゆる世代の人がより多く集まるにはどうしたらいいか、それを考えるのがとても楽しいです。

(プロジェクトメンバー 鍛冶)

コミュニティサロンや車座勉強会を活発に開催

「作ったり、食べたり」を楽しみながら



春から夏にかけてメンバー大忙しの半年でした。コミュニティサロンは5月に「子どもたちをよく知しましょう」、6月は「花めぐり」、7月に「ギョーザとおにぎり作り」、9月は「絵手紙作り」を行いました。ギョーザ作りに参加した4、5歳の女兒とお母さんからは「土曜も親子二人なので寂しい思いをしていました。今日は皆さんの仲間に入れてもらえて、とても楽しかったです」と言われました。

こども文化センターでは、幼児と大きなシャボン玉を作ったり、



紙ヒコーキづくり

絵を描いたり、夏休みにはわくわくプラザで昔遊び、そして中学生と蒸しパン作りを楽しみました。

地域のことをもっとよく知りたいということで、地域のケアマネジャーさん、包括支援センターの方、幼児教育に携わっている方を



生田中学校文化祭で、蒸しパン作り教室

招いての勉強会も開きました。

遊びや勉強を通して多くの人たちと出会いました。触れ合いこそが“この地域の中で生きている”実感を抱かせてくれるはず。私たちは、活動の中からそれを味わわせてもらっています。

(世代間の交流ができるコミュニティセンターをつくらうプロジェクト 代表 久野)

まち協に参加して

人々との出会いが心の栄養、健康の糧



好奇心いっぱいの子どもたちと

地域に知人も少なく、このまま年だけ重ねていってしまう寂しさを覚えるようになったところ、「世代間の交流ができるコミュニティセンターをつくらう」にか

いが心の栄養、健康の糧になっています。

雨の日、真夏の暑いときなど“いやだな”と思うときもありますが、あらゆる世代の人々と接している満足感で、そんな気持ちはすつとんで、夜は気分よくグーグーと寝ついています。家族の理解もあり、この活動を気軽に続けていこうと思っています。

(プロジェクトメンバー 栗原)



「観光資源・地産地消マップ」間もなく完成！



もぎ取りを待つ多摩川梨

「産直inたま」採りたての野菜、果樹が販売所に並びます。私たちの住むこの地で採れた生産者の顔が見える農産物です。

直売所マップづくりで生産者の方といろいろ話を聞くことができました。その年の天候、肥料のこと、作物の成長過程での苦労話など、それぞれのお宅にこだわりと

工夫があります。

その中から収穫時の喜びがひしひしと伝わってきました。

最終段階に差し掛かっていますが、このマップを手には野菜の買い物に、家の近くの散策に利用できるようにがんばっています。

(多摩区の観光資源・地産地消のマップづくりプロジェクト 代表 安陪)